

2026 年度全学サマープログラム（派遣型）総合募集要項

2026.4

※募集に関する情報・応募書類等是一部変更される場合があります、また有益な情報・よくある質問等を後日追加して掲載する場合もある。よって、最新情報を必ず **Go Global** 東京大学海外留学・国際交流情報ウェブサイトを確認すること。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-summer2.html>

1. 概要

以下の派遣先大学でのサマープログラムに参加する学生を募集する。それぞれの内容や資格・要件等の詳細は、プログラムごとの情報を記載した別紙 PROGRAM INFORMATION を参照すること。

No	派遣先大学	期間	募集対象者・人数（概数）	プログラム料金（予定）※	奨学金（要件を満たす希望者）
①	シェフィールド大学	2026年8月3日(月)～8月28日(金)	学部・大学院学生 45名	約 56 万円 2,616 ポンド/人 (宿泊費含む)	11 万円
②	ウォーリック大学	2026年8月3日(月)～8月28日(金)	学部・大学院学生 45名	約 73 万円 3,450 ポンド/人 (宿泊費含む)	11 万円
③	チュラロンコン大学	2026年8月10日(月)～8月21日(金)	学部・大学院学生 35名	約 18 万円 36,000 バーツ/人 (宿泊費含む)	9 万円
④	キングモンクット王立工科大学トンブリー校	2026年8月24日(月)～9月4日(金)	学部・大学院学生 30名	約 27 万円 55,000 バーツ/人 (宿泊費含む)	9 万円

※保険、航空賃等、プログラム内容以外の活動に係る個人的費用は自己負担となり、ここには含まれない。参加人数、宿泊施設に変更があった場合等も、料金に変更になる可能性がある。最終的な料金は採択学生決定後に確定する。各プログラム料金は募集開始時のレートでの概算となる。料金詳細は別紙 PROGRAM INFORMATION を参照すること。

2. プログラムの特徴

- (1) 本プログラムの参加にあたっては、高い語学力は求められない。一方で、東京大学が全面的に準備を行うプログラムではなく、将来長期留学の手続きを自身で行うことも見据え、学生が主体的に留学の準備を行うことが求められるプログラムである。プログラムには本学の教職員は同行せず、学内選考通過後や期間中の現地での対応は派遣先大学の教職員が行う。
- (2) 学内選考通過後の派遣先大学への手続き、派遣先大学への問い合わせ、航空券の購入等の留学の準備や、プログラム前の参加者同士の交流、現地への渡航、授業以外の時間の留学中の活動等は、学生自身で、あるいは参加者同士で協力し、主体的に行うこととなる。それを含めて留学経験として取り組むことが期待される。（学生と派遣先大学等で解決できない問題が発生した場合はサポートを行います。）
- (3) 本学の学生が集団で参加するプログラムであるため、参加学生は基本的には本学学生のみ、または日本の他大学の学生となる。過去の参加者の体験記等もよく確認し、そのようなプログラムに参加することを理解した上で応募すること。

過去の参加者の体験記：<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list-short-summer2.html>

※日本人が少ない環境で海外の学生と学びたい場合は、Go Global ウェブサイトの直接応募のページに掲載されているプログラムを検討してください。

直接応募のページ：<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-directapply.html>

- (4) 特にシェフィールド大学、ウォーリック大学のプログラムは海外経験が比較的少ない学生を主な対象とし、英語学習・文化体験・現地講義体験等を目的とするプログラムであるため、海外経験が豊富な学生や、英語力に自信がある学生向けではない。

3. プログラム内容

(詳細は別紙 PROGRAM INFORMATION を参照。内容は今後変更の可能性あり。)

① シェフィールド大学

本学の全学交換留学協定校で、ロンドンから北西約 260km に位置（鉄道で約 2 時間半）するシェフィールド市にある。近郊にはリーズ・マンチェスター・リバプールといった都市がある。英国内の大規模研究型大学で構成されるラッセルグループの一員であり、過去に 6 人のノーベル賞受賞者を輩出している。本プログラムは、英語学習と本学学生向けに用意されるシェフィールド大学の教員によるアカデミックな講義（**Todai Lectures**）を組み合わせたプログラムである。**Todai Lectures** にはサポート役で現地学生も参加し、講義の後にディスカッションの時間も予定されている。

② ウォーリック大学

本学の全学交換留学協定校で、ロンドンから北西約 150km に位置（鉄道で約 1 時間）するコベントリー市にある。英国内の大規模研究型大学で構成されるラッセルグループの一員。本プログラムは、海外留学に興味があるものの語学力に不安がある学生をターゲットとしており、英国の文化・歴史に関する授業やエクスカーションを通して英国の文化・社会への理解を深める。

③ チュラロンコン大学

本学の全学交換留学協定校で、タイ王国の首都バンコク都にあるタイ王国において最も古い歴史をもつ、権威ある国立大学である。本プログラムは、タイの歴史、社会、言語と文学、祭、食文化などを含むレクチャーのほか、タイ語を学ぶクラス、タイ料理やタイ舞踊などのワークショップも予定されている。

④ キングモンクット工科大学トンブリー校

タイ王国の首都バンコク都にあるタイを代表する国立の工科大学である。本プログラムでは、サステナビリティ、持続可能なビジネスの実践、カーボンニュートラルとネットゼロ、バイオエコノミー、循環経済、及びグリーンエコノミーなど多岐にわたるトピックを探求する。持続可能な開発目標、サステナビリティに関連するグローバルな視点を向上させることを目的としている。マングローブの植林体験も予定されている。

4. スケジュール

時期	予定
2026 年 4 月中旬	募集要項公開

2026年5月28日(木) 正午	<ul style="list-style-type: none"> ・(学部学生のみ) 国際総合力認定制度 Go Global Gateway) におけるオンデマンド講座の受講(動画視聴と確認テストの提出) 完了締切 ・本部国際教育推進課への問い合わせ締切 <p>※これ以降にいただいた問い合わせについては、応募締切までに回答できませんのでご注意ください。</p>
2026年5月29日(金) 正午	<p>学内応募締切</p> <p>※学部・研究科の担当部署においては、応募前に必要なプログラム参加に関する留意点の説明を受ける締切日をこれより早く設定しているため、事前によく確認し、締切日までに余裕をもって説明を受けられるようにすること。</p>
2026年6月中～下旬頃	学内選考・結果通知
参加学生確定後～プログラム開始日前	必要書類提出・プログラム費用の支払い等
2026年7月10日(金) 19:00～20:30	オリエンテーション(全員参加必須)
2026年8～9月	各プログラム開催
プログラム終了後1週間以内	事後書類の提出(体験記等)

5. 応募資格・条件

以下の要件をすべて満たすこと。

【学内における資格・条件】

- (1) 応募時に本学学部または大学院研究科・教育部の正規課程に在籍し、留学期間を通じて本学学部または大学院研究科・教育部の正規課程に在学する者(プログラム期間中に休学中の者や卒業等により本学学籍を失う者は参加できない)。2026年9月に本学を卒業・修了する者は、プログラムの終了日まで本学の学籍を有することを所属する学部・研究科等に確認すること。
- (2) 学部学生は、国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) におけるオンデマンド講座の受講(動画視聴と確認テストの提出) を完了していること。受講の所要時間の目安は約100分。完了していない場合、選考に影響する可能性がある。※オンデマンド講座：<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/ggg.html>
- (3) 本プログラムに参加するにあたり、本学の授業履修に関して特別な配慮はないことを理解し、本学の授業・試験期間、その他各自の予定等を応募前に十分確認し、全日程参加が可能な場合のみ応募すること。なお、本学からの派遣可能人数に上限・下限があり、応募締切後に辞退すると他の学生の留学の機会を失うことにつながるため、応募後に辞退することのないよう十分注意すること。やむを得ないと判断される場合を除き、辞退した場合は今後の留学プログラムや奨学金の選考に影響する可能性がある。
- (4) 本学の授業等に参加できない場合の扱いについては、プログラム参加時の所属学部・研究科の判断による。本プログラムへの参加に際し、特別な配慮が行われるとは限らないため、十分確認・納得した上で応募すること。
※教養学部前期課程に関しては、本募集要項プログラムの参加により授業又は試験に参加できない場合でも特別な配慮は取られず「欠席」扱いとなる。また、欠席による追試験の申請理由にもならないが、詳細は教養学部教務課に確認すること。
- (5) 本プログラム参加時における本学の指導教員等が既に分かっている場合は、本プログラムに応募することを事前に報告し、了承を得た上で UTAS 申請書の所定の欄に了承を得た日付を入れること。該当する教員等がない学生は、所定の欄に「指導教員なし」と入力すること(15. 応募方法・応募書類(4))。
- (6) プログラム参加時の所属学部・研究科の担当部署で、応募前に、プログラム参加に関する留意点の説明を十分受け、UTAS 申請書の所定の欄に担当部署名・担当者名のイニシャルまたは氏名・日付を記入し、納得した上で応募すること(15. 応募方法・応募書類(4))。記入されていない場合は申請を受理しない。業務の都合等により、急な対応は受け付けられない可能性があるため、プログラム中に所属する予定の学部・研究科の担当部署によく確認し、締切日までに余裕をもって説明を受け

られるようにすること。なお、学部・研究科により、プログラム参加にあたって独自の条件を課す場合がある。

- (7) 渡航前のオリエンテーションには必ず出席すること。オリエンテーションは、2026年7月10日(金)19:00-20:30にオンラインで開催予定。詳細は学内選考後に通知する。オリエンテーションに遅刻・欠席した場合は、プログラムへの参加資格を失うことを応募にあたり理解すること。事前にグローバル教育センターに相談し、授業等真にやむを得ない事情と認められ遅刻・欠席する場合には限り、代替措置を講ずる。

【プログラムが求める資格・条件】

別紙 PROGRAM INFORMATION で確認すること。

【保険への加入】

プログラムへの参加が決定した場合、留学中の保険として、公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES)の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に必ず加入することを、応募にあたり同意すること(加入に要する経費(5,980~11,130円程度、日数によって異なる)は自己負担となる)。加入にあたっての詳細は、選考終了後、派遣候補学生に追って通知する。

【派遣留学生危機管理サービスへの加入】

プログラムへの参加が決定した場合、留学中の危機管理対策として、日本エマージェンシーアシスタンス(株)の[派遣学生危機管理サービス OSSMA \(Overseas Student Safety Management Assistance\)](#) に必ず加入することを、応募にあたり同意すること(加入に要する経費(3,630円程度)は自己負担となる)。なお、加入にあたっての詳細は、選考終了後、派遣候補学生に追って通知する。

【宿泊先について】

派遣先大学の都合により宿泊先が変更になる場合がある。また、宿泊先が本学学生や他大学の学生(日本・諸外国)と同じになる場合もある。原則、宿泊先の振り分けは派遣先大学が行い、宿泊先の環境は個人によって異なる。寮などの宿泊施設の場合でも、宿泊先によってサービスや設備、滞在学生の人数・国籍等が異なる。特別に言及のない限り、滞在環境の違いによる料金の違いはなく、同一となる。様々な異なる環境の宿泊先があることを理解した上でプログラムへ申し込むこと。

6. 単位等

派遣先大学から単位は付与されない。

7. 航空券について

プログラムに参加が決定した者には、UTOLにて、本部国際教育推進課が指定する航空券の条件*を通知する。通知があるまで航空券は購入せず、通知を受けた後に、条件にあった航空券を購入すること。この通知の前に、個別にフライト条件を問い合わせる電子メールや電話には原則回答できない。フライト条件を通知する前にフライトを購入した場合や、指定された条件に沿わない航空券を購入した場合は、プログラム参加資格を取り消す可能性がある。また、それらにより生じた経済的損失について、本学は補償を行わない。

*現地の発着空港指定、交通手段の指定(陸路ではなく空路での到着限定)、発着時間帯の指定などを含む予定。

8. プログラム料金・費用・奨学金

【料金・費用】

別紙 PROGRAM INFORMATION 参照。

【グローバル教育センターを通じたプログラム付属奨学金】

奨学金を希望する者は、別添1に記載の奨学金受給希望調査に回答すること。応募締切までに回答がなかった者は奨学金を希望しない者とみなす。

- ・ 希望者のうち、要件を満たす者に奨学金（返済不要）を支給する。
- ・ 要件（前年度の成績評価係数等）の詳細については、別添 1「奨学金の支給要領及び受給資格・要件について」を参照すること。

9. 応募締切

5月29日（金）正午※

※本部国際教育推進課への問い合わせは5月28日（木）正午まで。

※学部・研究科の担当部署においては、応募前にプログラム参加に関する留意点の説明の締切日をこれより早く設定しているため、事前によく確認し、締切日までに余裕をもって説明を受けられるようにすること。

10. 学内選考

- (1) 原則、選考は書類審査による。
- (2) 合否結果の連絡等についての連絡は電子メールで行うため、応募後は定期的に UTAS での電子申請時に記載された電子メールアドレスを確認すること。重要な連絡が迷惑メールフォルダに振り分けられてしまう例もあるため、注意すること。
- (3) 原則いずれか1プログラムに参加可能となる。
- (4) より多くの学生に海外体験の機会を提供するため、過去にグローバル教育センター担当のサマープログラムとウインタープログラムへの参加経験がある学生が再度応募する場合は、学内選考の際に優先順位が低くなる場合がある。本プログラムに参加することで、将来グローバル教育センターが実施する他のプログラム（全学交換留学等）の選考には影響はない。
- (5) 選考結果は、6月中～下旬頃、電子メールで学生本人及び所属学部・研究科の担当部署に通知する。

11. 学内選考通過～プログラム参加決定後の留意事項

【プログラム参加手続き及び渡航手続き】

- (1) 参加手続き・渡航手続き・査証（ビザ）取得手続き等は、派遣先大学・本部国際教育推進課の指示に従い、本人の責任により行うこと。また、これらに要する費用も本人の負担となる。派遣先大学や本人の国籍によっては、査証（ビザ）の取得が必要な場合がある。書類不備や締切日の確認漏れ、査証（ビザ）の取得遅れや不許可等の理由でプログラムに参加できなくなった場合は本人の責任となり、それにより生じた経済的損失は自己負担となる。
- (2) パスポートを所持していない場合や、有効期限が切れる場合は、学内選考に通過後すぐに取得・更新を行うこと。

【学内での手続き】

- (1) プログラムへの参加が決定した場合、所属学部・研究科の担当部署に確認し、海外渡航に必要な手続きを行うこと。（必要な手続きは、所属学部・研究科毎に異なる。）
- (2) プログラムへの参加が決定した場合、指導教員等の関係者には事前に連絡するなどして、海外に一定期間派遣されることにより関係者の教育・研究活動等に支障をきたさないよう努めること。
- (3) 応募締切後の辞退は他の学生の不利益となるため、応募後に辞退することのないよう十分注意すること。やむを得ない事情により参加を辞退しなければならない場合には、採否結果の受領前であっても遅滞なく、本部国際教育推進課（studyabroad.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）に連絡すること。やむを得ないと判断される場合を除き、辞退した場合は今後の留学プログラムや奨学金の選考に影響する可能性がある。
- (4) 奨学金受給者が、前述の申請資格に反する事実が判明した場合、または受給者として適当でない事実があったときは、既に支給した奨学金の全額又は一部を返納させる。また、留学を中断・休止した場合も、既に支給した奨学金の全額又は一部を返納させることがある。
- (5) そのほか、本学が指示する注意事項に従うこと。

【留学のための情報、危機管理】

一般的な留学のための情報や危機管理等については、Go Global ウェブサイトを参照すること（<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/voyage/>）。特に、[危機管理ガイドブック](#)は必ず熟読すること。

12. プログラム参加の際の注意事項

- (1) プログラムの趣旨を理解の上、十分な学習成果を挙げ、プログラムを修了することに努めること。
- (2) 参加学生は本学を代表する立場にあることを自覚し、滞在先の機関・国の法令、規則、規程、マナー等を遵守すること。

13. 参加後の報告等

- (1) 参加学生は、プログラム終了日から1週間以内（必着）に本部国際教育推進課が定める体験記（所定様式）を提出すること。提出が遅れた場合、今後の留学プログラムや奨学金の選考に影響する可能性がある。
- (2) 学部学生は、本プログラム終了後に国際総合力認定制度（Go Global Gateway）の修了認定を申請すること（既に認定済、または認定申請中の場合は、再度申請する必要はない）。なお、前期課程修了要件となっている外国語科目の単位を未取得の場合は、全単位取得後に認定申請を行うこと。
- (3) 奨学金の受給者については、上記以外にも指定された報告書類等を提出すること。
- (4) プログラムによっては、上記以外にも報告書類の提出が求められる場合があるため、指定された期限内に提出すること。
- (5) 応募時のUTASからの電子申請に記載の住所や電話番号・電子メールアドレスに変更があった場合は、本部国際教育推進課へ連絡すること。プログラム終了後も必要事項の連絡の際に必要なので、留意すること。
- (6) 参加学生には、プログラム参加後、報告会や説明会への参加のほか、本学の国際化に関する業務への協力（留学プログラムの広報や学生へのアドバイス、アンケート調査等）を依頼する場合がある。依頼があった場合、やむを得ない事情のない限り協力すること。

14. 問い合わせ先

※電子メールで問い合わせる場合は、必ず件名にプログラム名、本文に氏名・所属・学年を明記すること。

- (1) プログラム全体、各プログラムの内容、申請や手続き、奨学金に関すること：
東京大学本部国際教育推進課 学生交流チーム (studyabroad.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)
- (2) [国際総合力認定制度 Go Global Gateway](#) に関すること：
東京大学本部国際教育推進課 国際支援チーム（国際総合力認定制度担当）
(contact_ggg.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)
- (3) UTAS 電子申請「2. 基本情報」及び「4. 家族等関係者の連絡先」記入・修正方法：
応募時の所属学部・研究科の担当部署
- (4) 単位認定等、本学での学務関係の事項：プログラム参加時の所属学部・研究科の担当部署
各学部・研究科の担当部署一覧：<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html>

15. 応募方法・応募書類

- (1) 奨学金を希望する場合は、別添1「奨学金の支給要領及び受給資格・要件について」に記載の奨学金受給希望調査に回答すること。応募締切までに回答がなかった者は奨学金を希望しない者とみなす。
- (2) 学部学生は、国際総合力認定制度（Go Global Gateway）におけるオンデマンド講座の受講（動画視聴と確認テストの提出）を完了していること。受講の所要所用時間の目安は約100分。完了していない場合、選考に影響する場合がある。
※オンデマンド講座：<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/ggg.html>
- (3) 応募締切日時までに学務システム（UTAS）からの電子申請を完了させること。
◇ 応募締切以降、電子申請システムは閉じられ、申請は一切受け付けない。また不備（特に募集要項やUTAS電子申請画面に表示される青字の説明に沿っていない不備）のある申請は受理されないか、不備のない申請を行った学生が選考で優先されることになる。余裕を持って応募書類を作成・確認し、応募すること。応募締切後、申請について差し戻しを受けた場合は、差し戻し時に指定される期日までに再提出されれば、選考対象となる可能性がある。応募締切前後は特に、UTASで配信される差し戻しのメールをよく確認すること。

(4) UTAS 電子申請画面に表示される指示・説明をよく確認し、その通りに入力すること（以下は特に注意が必要な項目）。

- ◇ 「2. 基本情報」及び「4. 家族等関係者の連絡先」は申請画面では記入・変更できない。そのため記入または変更が必要な場合は、応募時の所属学部・研究科の担当係に記入・修正方法を確認し、正しい内容を記入した状態で申請すること。
- ◇ 「3. 申請者本人の連絡先」電子メールアドレスは、本プログラムに関するやり取りに使うため、添付ファイル等も受信できる利用し易いメールアドレスとすること。携帯アドレス、iCloudアドレスを登録しているものは、本プログラムに関する連絡が確実にできる他のアドレスを「15. 連絡先メールアドレスについて」に正しく記載し、当課及び派遣先大学との連絡にはそのアドレスを使用すること。
- ◇ 「6. プログラム中の所属・学年」指導教員等氏名について、いない場合は「なし」と入力すること。いる場合は、「17. 指導教員への連絡」に了承を得た日付を入力すること。
- ◇ 「14. プログラム参加を希望する理由」には、「8. 希望プログラム」で選択した希望プログラム毎に志望理由を日本語の場合1プログラムあたり400文字程度、英語の場合1プログラムあたり250 words程度で記述すること。記述方法については、Go Globalウェブサイト募集ページ【応募方法】（参考資料：UTAS電子申請書応募書類記入方法）を確認すること。
- ◇ 「16. 募集要項と誓約書に記載の事項について」には、募集要項の「2. プログラムの特徴」と誓約書を読んだうえで、どのような心構えで主体的にプログラム参加したいかについて、日本語の場合400文字程度、英語の場合250words程度（最大500文字まで）で記述すること。
- ◇ 「18. プログラム参加時に所属する予定の学部・研究科からの留意事項確認」には、プログラム参加時の所属学部・研究科の担当部署から参加に関する留意点の説明を受けた上で、①担当部署名 ②担当者のイニシャルまたは氏名 ③説明を受けた日付・時刻を記入すること。記入されていない場合は申請を受け付けない（例：①●●学部△△チーム ②H・T ③10月21日10時50分）。
- ◇ 希望者は最大第三希望までプログラムに応募できる。応募後の辞退は他の学生の不利益となるため、明確に参加の意思がある全日程参加が可能なプログラムのみ選択すること。原則として、今回参加できるプログラムは1人につき1プログラムまでとする。

(5) 電子申請時に「19. 添付資料」でアップロードする書類については、下表を参照のこと。

応募書類	対象者	提出方法・備考
・ 誓約書	全員	・ 指定書式（ダウンロード）に <u>記入・署名後</u> 、PDFで「19. 添付資料」へアップロードする。電子署名も可とする。 ・ 保証人欄は家族等、学生本人が誓約事項を遵守することを保証できる者の署名を記入すること。
・ 高等学校の成績証明書	奨学金を希望し、かつ学部1年次1学期目で前学期の成績がない者のみ	高等学校の5段階評価の通知表・調査書等。奨学金の選考で使用。
・ パスポート顔写真ページの写し	保持者のみ	<u>プログラムによっては選考通過後、速やかに提出を求める場合があるため、保持・更新していない場合は、早めに取得・更新しておくことを勧める。</u>

【電子申請応募先】

学務システム（UTAS）にログイン後、画面上部にある「海外派遣」のタブより申し込むこと。

- ◇ 学務システム（UTAS）：<https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/>

【応募書類指定書式のダウンロード先】

Go Global ウェブサイトよりダウンロードすること。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-summer2.html>

以上